

昭島市指定文化財の指定について

上記の議案を提出する。

令和 6 年 7 月 18 日

提出者 昭島市教育委員会
教育長 山下 秀 男

昭島市指定文化財の指定について

昭島市文化財保護条例（昭和 51 年昭島市条例第 31 号）第 4 条第 1 項の規定に基づき、下記の文化財を昭島市指定文化財に指定する。

記

種 別	名 称	所有者
有形文化財 (古文書)	指田十次家文書一括	指田 健一

（提案理由）

昭島市文化財保護審議会条例（昭和 51 年昭島市条例第 32 号）第 2 条の規定に基づき昭島市文化財保護審議会より答申があったため、昭島市指定文化財に指定する必要がある。

昭教生ア第30－2号
令和6年6月4日

昭島市教育委員会 殿

昭島市文化財保護審議会
会長 和田 哲



昭島市指定文化財に指定することについて(答申)

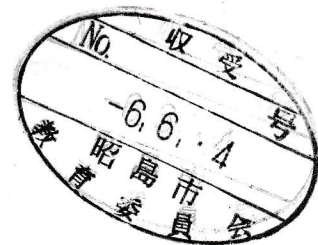
令和6年5月16日付昭教生ア第30号をもって諮問のありましたこのことについて、下記のとおり答申します。

記

1 新たに市指定とすべき文化財について

種別	名称	所有者
有形文化財 (古文書)	指田十次家文書一括	指田 健一

2 指定事由等は別紙のとおりです。



記 号 番 号	名 称	所 有 者 (所有者の住所)	指 定 年 月 日	現 況	創 始 及 革 び	指 定 の 由	付 記	参 考 文 献
昭島市指定第三一号	種 別	指田 健一 (横浜市神奈川区子安通三丁目 三五三番一九一三号)	令和六年七月一八日	その後、一時その所在が確認できない時期もあったが、令和三年一二月、現所蔵者の指田健一氏の御快諾をいただき、文書の所在確認と再調査を進め、新たに確認された文書二百点余も加えて一本とし、再度文書目録を作成、ここに改めてその全貌が明らかになったものである。 なお、本年三月、本文書群は一括、指田健一氏より市教育委員会に寄託され、昭島市郷土資料室に保管されている。	上川原村は、市域の他村とは異なり、江戸時代を通じて入組支配がなく、全域が幕府領という一元支配の村であった。そのため、文書の分析を通して村の諸相を一元的に知ることができるという点が特徴的な文書群である。 内容は、寛文七（一六六七）年の上川原村検地帳写を最古とし、主として江戸中期から明治初期に至るぼう大なもので、同村のいわゆる名主・戸長役筋の行政史料が大半を占める。とりわけ、御用留類や年貢割付状・皆済目録、村明細帳などがまとまって現存しており圧巻である。また、幕末期、指田家は生糸商を営み、その取引先は江戸、横浜、甲州にまで及んでいたが、その経営活動を伝える史料も多く、これらの公私にわたる文書類によって、近世・近代の上川原村内外の支配行政、村況、戸口、土地、貢租、諸産業、社会情勢、文化活動、および指田家の豪農経営など、さまざまな歴史を知ることができ、地域史料としてきわめて貴重である。	右記のような残存状況に鑑み、市域の近世・近代史に資する貴重な歴史資料であることから、昭島市文化財保護条例（昭和五一年昭島市条例第三一号）第四条第一項に規定する昭島市指定有形文化財（古文書）に指定する。	名称については、昭和五一年に刊行した『昭島市史資料編 地方文書目録Ⅰ』に、当時の所蔵者名をもって「指田十次家文書」として収録され、且つその後発刊した『昭島市史』でも、この名称が多用されているので、現在所蔵者は指田健一氏に替わっているが、旧来の名称を踏襲した。	『昭島市史』一九七八年 昭島市史編さん委員会編 昭島市発行 『昭島市史資料編 地方文書目録Ⅰ』一九七六年 昭島市史編さん委員会編 昭島市発行 『指田十次家文書目録』二〇二四年報告（未刊）